

中学部陶芸班 「作業学習」 学習指導案

日 時 平成〇年〇月〇日 (〇)
〇校時 〇〇:〇〇~〇〇:〇〇
場 所 作業実習室
指導者 〇〇 (T1)、 〇〇 (T2)

1 単元名 稲養祭に向けた製品作り「小皿や小鉢等の製作」

2 単元の目標

- (1) 作業内容が分かり、一人で作業に取り組む。
- (2) 稲養祭で販売することを意識して製品を作ったり、意欲的に販売活動に取り組んだりする。

3 生徒と単元について

(1) 生徒について

本学習グループは、1年生2名、2年生1名、3年生1名、計4名で構成されている。全員が今年度初めて陶芸班に所属した。コミュニケーション面においては、3名が日常会話のやりとりが可能で、言葉による指示を聞いて理解し、作業することができる。1名は、言語による意思表示が難しいが、決まったパターンを覚えることにより、言葉による報告や依頼が可能で、簡単な指示や視覚的な情報により作業することができる。

1年生2名は、今年度から作業学習に取り組んでいることもあり、作業時間が長くなってくると集中力が途切れやすい。また、4名とも体調などによって、作業時間が長くなると返事や報告などの態度面に課題が見られたり、仕上がりにむらができたりすることがある。

年度当初に、全員が小皿と小鉢の作業を体験した。現在は、個々の得手・不得手や、仕上がりの状態を考慮して、小皿作りと小鉢作りを、それぞれ2名ずつ担当している。報告のタイミングや返事の仕方、良否の判断などでは課題が見られるが、道具の扱い方や作業手順を覚え、全員が自ら作業に取り組むことができるようになってきた。

(2) 単元について

陶芸班では、これまで、粘土を薄く伸ばしてたたらを作り、形を整えていく小皿作りと小鉢作りに取り組んできた。日常生活で親しみのある小皿や小鉢といった陶器の製作は、製作意欲を高めるための動機付けになる。また、素焼きや本焼きを経て、粘土が変化していく過程は、生徒にとって興味深く、物を作ることへの喜びや意欲、自信を育てることができると考ええる。

粘土は、変形したり、破損したりしやすいため、注意深く扱う必要があり、特に成形には集中力を要する。作業内容が多い工程のため、報告の場面が多く、言葉遣いや話し方などの態度面についても確認することができる。

本単元では、稲養祭での販売を目指して製品作りを行っている。販売するための製品を目指すことで集中力を高め、正確さ、丁寧さを意識して作業しようとする態度を育てることができると考ええる。また、「販売する」という活動は、お客さんに喜んで買ってもらいたいという気持ちを育て、それが作業意欲につながっていくと考え、本単元を設定した。

(3) 指導にあたって

- ・販売までの見通しや意欲をもって作業できるように、日程表を掲示する。
- ・一人で取り組むことができるような作業内容を選定する。小鉢作りには、深さのある成形において歪まないよう注意しながら取り組むことができる生徒を、小皿作りには、数を数えたりタイマーを活用したりすることできれいに成形することができる生徒を担当にする。
- ・教師の指示や言葉掛けを控え、一人で作業を進めることができるように、生徒の実態に応じて卓上の工程表を準備する。
- ・目標を意識できるように、作業日誌を活用して個々の目標を確認するとともに、個々の工程表にがんばりどころとしてポイントを明記する。
- ・材料や道具の選択、工程の分析などで、専門的知識をもつ方からの助言を生かす。また、実際に授業の中でアドバイスをいただいたり、良い見本を提示していただいたりすることで、生徒の意欲を喚起する。
- ・仕上がりを自ら判断することが難しい生徒については、自分から報告することができるようにするためにタイマーや見本カードを活用する。
- ・作業に集中できるように、作業テーブルの整理整頓に気を配る。使った道具は、その都度かごに入れるよう促し、煩雑にならないようにする。
- ・立ち作業であるため、疲れをためないように、途中で5分程度の休憩を入れる。

4 指導計画 (総時数65時間 本時 40、41/65)

*7月～11月の毎週水曜日と金曜日の3・4校時。(9/3～9/11は後期校内実習)

| 学習活動 | | 時数 | 主なねらい | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------|---|--|----|---------|---------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|--|--------|-------|--|
| <作業販売について知ろう> ○稲養祭の期日を知る。 ○稲養祭で販売することを確認する。 ○自分の作業内容を知る。 | | 2 | ・販売までの日程を知り、期待感をもつことができる。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <製品を作ろう> ○小皿、小鉢を製作する。 | | 7月(2) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 作業 工程 | I | <table border="1"> <thead> <tr> <th>小皿</th> <th>小鉢</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・粘土を伸ばす</td> <td>・粘土を伸ばす</td> </tr> <tr> <td>・粘土を切る</td> <td>・粘土を切る</td> </tr> <tr> <td>・成形する</td> <td>・成形する</td> </tr> <tr> <td>・乾燥させる</td> <td>・乾燥させる</td> </tr> <tr> <td>・やすりがけ</td> <td>・縁を切る</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・やすりがけ</td> </tr> </tbody> </table> | 小皿 | 小鉢 | ・粘土を伸ばす | ・粘土を伸ばす | ・粘土を切る | ・粘土を切る | ・成形する | ・成形する | ・乾燥させる | ・乾燥させる | ・やすりがけ | ・縁を切る | | ・やすりがけ | 7月(4) | ・準備や後片付けに、一人で取り組むことができる。 ・自分の作業内容が分かり、一人で作業を進めることができる。 ・その日の自分の目標が分かり、意識して作業をすることができる。 ・状況に応じたあいさつや返事、報告をすることができる。 ・販売を意識し、良否のポイントに気を付けて作業することができる。 ・製作活動を通して、完成させる喜びや満足感を得る。 |
| | 小皿 | 小鉢 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・粘土を伸ばす | ・粘土を伸ばす | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・粘土を切る | ・粘土を切る | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・成形する | ・成形する | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・乾燥させる | ・乾燥させる | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ・やすりがけ | ・縁を切る | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ・やすりがけ | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| II | ・素焼き(窯づめ、窯出し) ・やすりがけ | 9月(37) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| III | ・撥水剤塗り ・釉がけ | 10月(14) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| IV | ・本焼き(窯づめ、窯出し) ・やすりがけ | 11月(4) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 本時 (38,39/59) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <販売の準備をしよう> ○ポスターやちらしを制作する。 ○値札を付け、袋詰めを行う。 ○販売練習を行う。 | | 2 | ・購入してもらうためのポスターや包装はどんなものが良いか考えることができる。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| <作業販売の反省とまとめをしよう> ○売り上げを確認する。 ○販売会の感想を発表する。 | | 11月(2) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2 | ・販売活動を通して成就感を味わう。 ・これまでの作業を振り返り、次の目標を考えることができる。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 11月(4) | | | | | | | | | | | | | | | | |

5 本時の計画

(1) 目標

- ・担当する作業の工程を理解し、一人で作業を進める。
- ・作業の終了や仕上がりを判断し、自分から報告する。

(2) 生徒の実態と個人目標

| 氏名等 | 個人目標 | 単元に関する実態 |
|-----------|---|--|
| A 1年女子 | ・小鉢の縁の厚みを変えないように、確認しながら成形する。 ・報告の際に、教師の応答を待つ。 | ・準備物や工程を理解して、ほぼ一人で作業を進めることができる。仕上がりが具合の判断に自信がないため、不十分な出来でも報告することがあるが、少しずつ確認してからの報告ができるようになってきた。 ・不明瞭ではっきりと聞こえないことがあるが状況に応じた返事や報告ができる。 |
| B 1年男子 | ・タイミングよく報告し、一人で作業を進める。 ・手元をよく見て作業し、3枚以上成形する。 | ・仕上がりを判断することが難しいため、報告をしたり、次の工程に進んだりするときに促しが必要ながあるが、工程を理解し、意欲的に作業に取り組んでいる。 ・他の生徒の様子や来室者などが気になり、集中度にばらつきが見られるものの、少しずつ手元を意識できるようになってきた。 |
| C 2年男子 | ・型に粘土が密着するように気を付けて成形し、4個仕上げる。 ・立ち止まって報告する。 | ・準備物や工程を理解し、ほぼ一人で作業を進めることができる。作業が丁寧で仕上がりが具合も良い。しかし、気持ちに左右されることがあり、仕上がりにむらが見られる。 ・報告が友達口調になったり、止まらずに話し始めたりするなどの課題が見られるが、少しずつ意識できるようになってきている。 |
| D 3年男子 | ・各工程で使う物やその順番を理解し一人で作業を進める。 ・成形の終了を判断し、自分から報告する。 | ・周りの動きや教師の支援を頼りに動くことが多いが、工程を大まかに理解し、一人で作業を進めることができるようになってきた。 ・終了の判断が難しい工程で、報告をしないで次の工程に進んでしまうことがあるが、教師と一緒に確認することで、少しずつ作業の終了が分かるようになってきている。 |

(3) 展開

| 時間(分) | 学習活動 | 教師の支援と動き | 準備物 |
|-------|---|---|---|
| 10 | <p>1 作業実習室に集合し、名札を返す。</p> <p>2 あいさつをする。</p> <p>3 本時の作業内容を知り、目標を確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・服装や名札の色をチェックし、必要に応じて声をかける。 ・(D) 姿勢や声量を意識できるように、T1が隣に立つ。 ・前時に反省をもとに考えた目標を、再度確認し、考えることができるように、作業日誌を読み直すよう伝える。 | <ul style="list-style-type: none"> ・名札 ・エプロン ・名前カード ・作業日誌 |
| 60 | <p>4 作業の準備をする。</p> <p>①道具の準備</p> <p>②粘土の準備</p> <p>5 製品作りをする。</p> <p>工程I</p> <p>【小皿】(B)(D)</p> <p>①粘土を伸ばす</p> <p>②粘土を切る</p> <p>③成形する</p> <p>④乾燥させる</p> <p>(⑤やすりがけをする)</p> <p>【小鉢】(A)(C)</p> <p>①粘土を伸ばす</p> <p>②粘土を切る</p> <p>③成形する</p> <p>(④縁を切る)</p> <p>⑤乾燥させる</p> <p>(⑥やすりがけをする)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えて準備できるように、指示や確認は最小限にとどめる。 ・稲養祭で売れることを意識し、良い製品を作ることができるように、写真や実物を使って良否のポイントを確認する。 ・主にT1が小皿を、T2が小鉢を担当する。報告は、適宜受けるようにする。 ・(B) 報告のタイミングが分かりやすいように、①④でタイマーを活用する。②では一度切ったら報告するように事前に確認する。③では、数を数えるように確認する。工程表に報告のタイミングを明記しておく。T1 ・(B) 意欲や集中力が持続するように、生徒の様子を見ながら声をかけたり賞賛したりする。また、目標数を意識できるように工程表に明記し、時々確認する。T1 ・(D) 一人で準備できるように、道具の写真カードをかごに張っておく。また、工程の進み具合を理解しやすいように、報告も含めたすべての活動を、めくりの工程表にして準備する。 ・(D) 成形の終了が分かりやすいように、一緒に10まで数唱する。T1 ・(A) 仕上がりのポイントが分かるように、見本を作業台に置いておく。また、良い所や悪い所を一緒に確認する。T2 ・(A) 作業前に、報告のときは教師の応答を待つ、ということ伝えて確認する。また、報告に来たときには、(A)に分かるように応答をする。T2、T1 ・(C) 立ち止まってる報告が意識できるように、足をそろえて確実に止まっているかを、報告のときに見て確認する。できたときには、賞賛することで意欲につなげる。T2、T1 ・(C) 報告に来た際、仕上がりがきれいな場合は「きれいだね。これなら売れるね。」など、賞賛することで意欲につなげる。粘土をしっかり押さえたり、目標数を意識したりできるように、ポイントや数を工程表に明記し、時々確認する。T2、T1 | <ul style="list-style-type: none"> ・道具かご ・粘土 ・粘土板 ・めん棒 ・ぬれふきん ・切り針 ・型紙 ・石こう型 ・手動ろくろ ・電動ろくろ ・スポンジ ・タイマー ・ドライヤー ・出来高表 ・写真カード ・卓上工程表 |
| 30 | <p>6 後片付け、掃除をする。</p> <p>7 作業を振り返り、次の目標を考える。</p> <p>8 あいさつをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・協力し合って掃除を進めるように声をかける。 ・出来高や出来栄はどうだったか、自分で決めた目標に対してどうだったかを具体的に問いかける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ほうき ・ちりとり ・ぞうきん ・バケツ ・作業日誌 |

(4) 評価

【生徒】

- ①教師が一つ一つ声を掛けなくても工程表や写真カードを見ながら一人で作業を進めていたか。
- ②写真カードや工程表を見て、自分から教師に終了の報告をすることができたか。
- ③仕上がりの良し悪しの判断のポイントを教師に質問されたとき、正しく答えることができたか。

【教師】

- ①生徒一人一人の目標設定は適切であったか。
- ②生徒一人一人の目標を達成させるための教師の働きかけは適切であったか。
- ③生徒一人一人の目標を達成させるための環境設定は適切であったか。
- ④生徒一人一人の特性や発達段階に応じた支援ができたか。
- ⑤教師間の役割分担や連携は適切であったか。
- ⑥生徒が主体的に作業を進める上で、写真カードや工程表が有効な手立てとなっていたか。